

現代西洋経済史まとめ

池上慧

2017年11月14日

1 第2次産業革命

1873年から1896年まで続いた大不況期に進展した第2次産業革命は、独占企業の登場に伴う市場の組織化とそれに対抗する形での労働組合の組織化を導いた。マクロな視点ではイギリスの停滞と米独の台頭が顕著になり多極化の流れが鮮明となった。各国における第2次産業革命のあり方は第1次産業革命の起こり方が準備していた。具体的にはイギリスにおいては産業革命が発生するような環境が整備された上での内発的な現象として産業革命が発生したが、諸外国では外発的に国主導で行われた。その際にイギリスを手本としつつ反面教師ともしつつ革命が進行したことに特徴がある。

1.1 第2次産業革命の具体的要素

- 製鋼革命
鋼鉄の大量生産が可能となるベッセマー法が発明された。製鉄、製鋼、圧延を一社で行うことでコストを下げる範囲の経済がワークするようになった。
- 新産業の誕生
電気、化学、石油、機械産業が勃興した。
- 固定資本の巨大化と科学的管理法
規模の経済が存在するため大量生産を目指すようになる。そのために生産管理と労務管理が必要となり熟練労働者を用いての間接管理方式から科学的管理法に基づいた直接管理方式へと移行が進む。また同時に安定した供給を確保するために垂直的統合、水平的統合による市場の組織化が進展した。
- 科学研究と技術の結びつき
研究開発への投資が行われるようになり、それに答えるための技術者要請が国の施策として行われるようになる。
- 株式会社の誕生
社会的遊休資産集中の枠組みとして株式会社が合法化される。また有限責任が明記されたことでリスクを取りやすくなる。
- 銀行資本と産業資本の有機的結びつき
銀行による株式発行、保有や役員派遣、交互計算業務などにより銀行と企業が有機的に結びつくようになる。これは銀行主導での企業グループが発生する基盤となった。

1.2 第1次と第2次：イギリス

第1次キーワード

- 社会的分業
 - － 全国市場の成立
 - － 交通インフラの整備
 - － 銀行体系の確率
- パートナリシップ

- 間接管理制
- 経済的自由主義
- クラフトユニオン

第2次キーワード

- 経験主義、現場主義
- 植民地市場
- 商業銀行
- イギリス型独占
- 労働組合法
- 争議法

1.3 第1次と第2次：フランス

第1次キーワード

- フランス革命
- ルシャ・プリエ法
- 普仏戦争
- 復古王政期
- クレディモビリエ
- サン・シモン会議

第2次キーワード

- 大企業と国内市場
- 中小企業と輸出
- 第3共和制
- 4大銀行
- 事業銀行
- アンクタット/コートワール
- サンディカリズム

1.4 第1次と第2次：ドイツ

第1次キーワード

- 2重革命
- ユンカー経営
- イヌング
- ドイツ関税同盟
- ルール工業地帯
- プロイセン
- 特殊ドイツ型銀行
- 歴史学派経済学

第2次キーワード

- ドイツ帝国

- ベルリン工科大学
- ルール工業地帯
- クルップ
- ドイツ型銀行（主導性）
- 生産材
- カルテル
- 家父長制的企業経営
- 社会民主主義労働党

1.5 第1次と第2次：アメリカ

第1次キーワード

- 地域的分立
- 州権主義
- ハミルトン体制
- 南北戦争 (1865 年)
- アメリカ式工業生産体制
- 独立自営農
- 自己金融

第2次キーワード

- 全国的な金融市場（ニューヨーク金融市場）
- ビッグビジネス
- カルテル/トラスト
- シャーマン反トラスト法
- 投資銀行
- 機能別管理機構
- ピラミッド型階層組織
- ホワイトカラー
- テイラー主義
- AFL
- 福祉資本主義

1.6 第1次と第2次：マクロな視点から

-

2 戦間期

2.1 戦間期：マクロな視点から

2.2 戦間期：イギリス

2.3 戦間期：フランス

2.4 戦間期：ドイツ

2.5 戦間期：アメリカ